

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1191800232		
法人名	医療法人社団 愛優会		
事業所名	グループホーム草加原町		
所在地	草加市原町3-15-30		
自己評価作成日	令和2年3月27日	評価結果市町村受理日	令和2年6月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社シーサポート
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9
訪問調査日	令和2年3月31日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者様の健康と安全の為、毎日の日課としている運動を実施する。閉鎖的でなく社会との交流や年齢層に限定したサービスだけでなく、さまざまな人間関係を通じて、入居者様の生き生きとした生活が継続できるように努めております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

●認知症カフェの開催は地域の方は無論、迎え入れる利用者にとっても楽しみのひとつとなっています。また社会福祉協議会の依頼により市民後見人養成講座の実習を受託しており、関係機関との連携により新たな地域貢献が始められています。  
●全体会議により職員への指導・意見聴取がなされています。会議録からは「経営・情報・自己」の開放性を理解でき、ホーム内の風通しの良さを感じることができます。  
●ケアプラン更新時を中心に利用者・家族の要望の把握に努めています。日々の記録にはケアプランの短期目標の実施について欄を設けるなど計画を意識した支援に努めています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念に基づき、個々の職員が意識を高く持ち、ご入居者様の事を第一に考えた支援を行うように努めている	水分・食事の摂取、外気に触れることを重視した支援を継続しており、パンフレット等にて広報がなされている。職員に対しても事業所内研修を通してその大切さを周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会への加入による地域とのつながり、共同菜園による近隣住民との交流は継続している 施設外へ出た際も、住民の方々が気軽に声をかけてくださり、ご入居者様も喜ばれている	町会とのつながり、菜園での共同作業等々により地域との交流がなされている。認知症カフェの開催は地域の方は無論、迎え入れる利用者にとっても楽しみのひとつとなっている。	今春より小規模多機能型居宅介護が再開されることから、連携により更に地域との交流が深まることが予想される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は認知症カフェを3回開催し、多くの方に参加して頂くことができ、様々な情報交換や交流の場を提供することができた	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は5回実施し、様々な意見交換や情報の共有を行うことができた。 第6回目は、新型コロナウイルスの影響にて書類での報告となる	民生委員、地域包括支援センター、町会長が参加し、定期開催がなされている。災害時の協力、広場へのトイレ設置など多岐にわたる意見交換がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者の方の運営推進会議参加や、社協後見人の方の定期的な訪問時に施設運営状況等の報告を行っている	社会福祉協議会の依頼により市民後見人養成講座の実習を受託している。関係機関との連携により新たな地域貢献が始められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての会議や施設内研修の実施、身体拘束廃止手順書の設置などで、職員個々の知識と理解を深めるよう努めている 施設内に身体拘束対策委員会を設置、定期的な会議を行い、内容を運営推進会議で報告している	身体拘束対策委員会の実施、全体会議での話し合いを通して職員への指導に取り組んでいる。運営推進会議においても状況報告がなされており、意見を仰ぎながら進められている。	通常業務においても見守り・記録について強化していくことが話し合われており、職員の連携による適切な支援の実施に取り組んでいる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての会議や施設内研修により職員個々の知識や理解を深めるよう努めている また、入浴や更衣の際にご入居者様の身体に異変が無いかに常に注意を払うように努めている	/	/

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2名の入居者様に後見人の方がいるため、定期的に交流する場を設けている 権利擁護について施設内研修で学び、職員個々の知識と理解を深めるように努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書面だけでなく口頭でも説明し、ご入居者様やご家族様の理解を得られるように努めている 施設運営内容等に変更が生じた場合も、都度口頭や案内書送付により説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に行っている運営推進会議への参加を呼びかけたり、面会に来られた際に話す機会を設け、ご入居者様やご家族様の意見や要望を発信できる場を持つように努めている	ケアプラン更新時に意向を聞くなど意見の聴取に努めている。本評価に伴う家族アンケートでは感謝の声、雰囲気良さへの賛辞など多数の声が寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体会議の開催により、職員の意見や要望を聞き、施設運営に反映するよう努めている	全体会議により職員への指導・意見聴取がなされている。会議録からは「経営・情報・自己」の開放性を理解でき、ホーム内の風通しの良さを感じることができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「働き方改革」に基づき、入浴日の曜日固定は今年度も継続 配食サービス利用、物品購入のネット利用などにより、職員の負担軽減に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修への参加を積極的に勧め、シフト調整や他の職員の理解を得るなどして、環境を整えるよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年2回程度開催されている、他事業所交流会において、各施設内で困っている事例検討会や 制度変更時の対応についての意見交換を実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々入居者様との関わりの中から、不安に思っていることや困っていることを、職員が察知できるよう努めている ご家族様の意見も伺い、早期解決・改善できるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には職員の方から積極的に話しかけ、ご家族様の意見や要望、お困りのことを話しやすい雰囲気作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設ケアマネによる定期的な聞き取りを行い、その内容をケアプランに反映し、日々のサービスに繋がるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃からご入居者様との良好な関係構築に努め、ご入居者様がリラックスして生活して頂けるような雰囲気作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に施設行事案内(電話や面会時)を行い、ご家族様と一緒に行事を楽しんで頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との関係が途切れないよう、様々な働きかけを行うよう努めている	家族・後見人等との関係を支援し、穏やかな生活がおくれるよう取り組んでいる。また関係者だけでなく訪問してくれる方々との交流により、利用者の刺激や社交を大切にしよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各フロア内だけでなく、施設内全ての方との交流をもてるよう、職員が働きかけを行っている お弁当、新聞等の配達などを入居者様が職員と共に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後のフォローも柔軟に行い、関係が途切れることのないよう努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様が何を望まれているかをお聞きし、可能な限り希望に添えるよう柔軟に対応している それらの要望等はケアプラン更新時に反映させるよう努めている	ケアプラン更新時を中心に利用者・家族の要望の把握に努めている。日々の記録にはケアプランの短期目標の実施について欄を設けるなど計画を意識した支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できるだけ入所前の生活に近い環境で生活して頂けるよう、環境整備に努めている アセスメントは全職員が事前に目を通すようにして情報共有に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の様子は出来るだけ詳細に記録に落とすようにし、関わる職員全てがご入居者様の現状を把握して支援にあたるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の要望は電話や面談時などに聴取を行っている 通常の業務内だけでなく、アンケートやカンファレンスなども使い、職員間の意見交換を行い介護計画に反映させるように努めている	体調や利用者のモチベーションを考慮した総合的な援助方針・目標によりケアプランが立案されている。利用者の要望の反映と家族の意見の聴取に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	どんな些細な事もできるだけ記録に落とし、各職員が記録漏れが無い意識するように努めている 特に周知したいことがあれば付箋を使うなどして、全職員が目にするように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様一人一人のニーズにできるだけ沿えるよう、ご本人の希望されている衣類やおやつなどの購入等に対して、柔軟な対応を取るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節や天気に応じて、外へ出かける機会を作り、公園での体操や川沿いフェンスを利用したスクワット等を実施している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科：四葛四三丁目診療所 2回/月 入居者様の様子や特変などの介護記録をもとに診察を行っている 歯科：長栄歯科 定期訪問 職員が定期的に口腔ケアの指導を受けている	法人内クリニックによる定期での往診、訪問歯科等により利用者の健康管理に取り組んでいる。投薬について事業所内研修を実施するなど職員の自己研さんにも努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師との情報共有に努め、体調変化があれば電話で指示を仰ぐなどし、迅速な対応に努めている 内科訪問診療には施設看護師が同席して対応		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院相談員との連絡を密にし、入院中や退院後の支援に繋げている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員・看護師・ご家族様の連携により情報共有に努め、ご入居者様が今何を望まれているかを第一に考え、最良の支援を行えるよう努めている	重度化した場合における(看取り)指針が策定されている。ターミナルに向けてのプラン作成について細かに規定されており、尊厳あるケアを目指すことが約されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変時や事故発生時の対応についてはマニュアルを作成・周知し、全職員がどんな状況であっても統一した対応がとれるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の防火管理者講習受講、施設内での様々なシチュエーションを想定した避難訓練の実施、消防による防災点検などを実施している	通報・避難・消火等の訓練が実施されている。誘導時間の計測、近隣への協力要請等形骸化することなく実施がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬う気持ちを忘れずに、入居者様一人ひとりに合った対応に努めている 施設内研修により職員個々の意識を高めるよう努めている	接遇の事業所内研修を実施しており、言葉使い、立ち振る舞いについてチェックリストを用いた指導がなされている。利用者を大切に思う気持ちを表現できるよう研さんに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様にご自分の意思を伝えることができるような関係・雰囲気作りに努め、ご入居者様一人ひとりのニーズを把握できるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	曜日による日課を設定してはいるが、入居者様の身体状況や精神状況によって、柔軟に対応するよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	3ヶ月に1回の訪問理容実施 入浴時の着替え選びはご入居者様の意向を尊重しつつ、適切に支援を行うよう努めている 髪染めを希望される方にも柔軟に対応している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前の準備や配膳・下膳・片付けなど、食事に関わる場をできるだけ多くの方に提供するよに努めている	食生活におけるポイント・低栄養への留意等を伝えている。カロリー計算がされた食事が提供されており、実施する運動とのバランスをとり、健康的な生活がおくれるよう支援に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は正確に記録に落とし、入居者様の状態把握に努め、食欲低下など個々に柔軟な対応をとるよう努めている 残存能力を大切に、食介は極力行わないよう努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施 定期的な訪問歯科診療により口腔内の清潔を保つよう努めている 口腔内トラブルが生じた場合は速やかに訪問歯科クリニックへ連絡し、必要な処置を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりに合った排泄タイミングを個々の職員が把握し、適時トイレ誘導を行うように努めている	排せつの記録の確認より利用者の状態に沿った排せつ支援に取り組んでいる。夜間時も誘導によりトイレでの排せつとなるよう丁寧な支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様一人ひとりの排便状況を把握し、自然な便通を促すため、プルーン摂取や腹部マッサージなどを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は固定となっているが、その日の入居者様の様子や気分次第で順番を変えたり、体調不良や拒否などがある場合は翌日以降に入浴日を変更する他、楽しんで頂くような雰囲気作りを心掛けている	定期での入浴実施により清潔の保持に努めている。スキントラブルの確認等視診により利用者の健康状態の把握にも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の状態によっては、日中に短時間の臥床対応を取り、休息を取り入れるように努めている 安眠を促すため、湿度や室温に配慮したり、日中に適度な運動を取り入れたりしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様一人ひとりがどのような薬を飲まれているかを把握するために、薬情表一覧を作成・周知し、個々の職員が服薬に関する意識を高めるよう努めている。また状態変化の際は、看護師に報告し指示を仰いでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の生活歴や嗜好などを把握し、コミュニケーションや家事参加・レクリエーションに活かし、気分転換や意欲の向上に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の外出の要望に対しては、ご家族様の協力を頂きながら、出来る限り要望に沿えるよう努めている	日光浴による様々な効果について指導しており、気分転換だけでなく免疫力向上等にも役立てるよう努めている。お花見や夏祭りなどの行事が実施されており、安全に注意しながら花火をするなど利用者の楽しみが増えるよう取り組んでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様から要望があれば、職員が買い物の代行をおこなうなど、出来る限り要望に沿えるよう努めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話をおつなぎしたり、要望があった際は電話をお貸しして、ご家族様との会話を楽しんで頂くように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の清潔感を大切にするため、曜日分担で清掃を徹底するよう努めている。居室内の清掃は、入居者様と一緒に行うようにしている 季節の掲示物や行事の際の写真を飾るなどして、楽しめる空間作りに努めている	インフルエンザ・新型コロナウイルス・食中毒への対策が講じられており、環境消毒への指導・実施している。清掃の徹底、修繕の計画等により利用者の住みやすい環境構築に取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	毎朝の体操や運動・食事以外の時間は、各々好きな場所で過ごして頂き、職員は見守る形での支援を行っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や備品、お気に入りのものなどを居室に置いて頂き、落ち着ける雰囲気作りに努め、安心して生活して頂けるように支援している	夜間の定期巡視がなされており、安心して睡眠がとれるよう見守りがなされている。プライバシーの確保、趣味や趣向の継続等その人らしい生活が送れる環境の提供に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口にお名前を記したり、トイレの表示や下駄箱内の配置など、入居者様の自立を促すよう努めている		

目標達成計画

作成日: 令和2年5月10日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		小規模な避難訓練は定期的に行っているが、近隣の住民の方も含めた大規模な避難訓練は未実施のため、有事の際に実際に動くことができないか心配である。	避難の際のご入居者様の誘導順位を職員が把握し、よりスムーズに全てのご入居者様を安全に誘導できるスキルを身に着ける。	ご入居者様の状態を考慮した上で誘導順位を組み立て、実際の避難訓練で実施し、問題があれば再び検討し、入居者様の誘導順位を確立させる。	6ヶ月
2		より強い地域との繋がりを目指しているが、ボランティアなどの外部との繋がりが少ない。	目標の①にも関係することであるが、より深い繋がりを確立させ、ご入居者様が地域の中で暮らしているという安心感を持つて生活できるようにする。	共同菜園での交流の継続。 積極的にボランティアを募り、ご入居者様と外部との交流を重ね、関係構築に努める。 地域行事への積極的な参加。	12ヶ月
3		日課は設定しているが、ご入居者様に楽しんで頂けるイベントやレクリエーションが少ない。	全てのご入居者様に刺激のある充実した毎日を提供できるよう努める。	大きな行事だけでなく、普段の生活の中でのちよとしたイベントやレクリエーションを行うことで、刺激のある毎日を提供する。 どの職員もレクリエーションを提供できるよう、個々が考え提案するよう努める。	6ヶ月
4					ヶ月

手続

- ①上記に記載
- ②行政に 自己評価結果及び外部評価結果・目標達成計画を提出
- ③右の提出日を記載しこちらの用紙を評価機関にFAXにて送付 (FAX050-3730-1416)

行政への提出日 : 令和 2 年 6 月 3 日